

GPA制度導入に際しての ポイントや課題

高等教育研究センター
加藤 鉦三

1

新答申 のメッセージ

2

新たな未来を築くための
大学教育の質的転換に向けて
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～

『新答申の概要』

高等教育研究センター
加藤 鉦三

3

新答申の二つのメッセージ

成熟社会 → 「知識を基盤とした自立、協働、創造モデル」

そのために**学生に勉強させる**

どうやって？

p.6 学校制度全体を、従来からの組織や形式の観点からではなく、①**プログラム 中心**・②具体的な**成果中心**の観点から見直す

①+②=卒業時の知識・能力で**大学が評価される**
「**学位授与の方針**」

4

5. 学士課程教育の現状と学修時間

■学修時間に着目する理由

1. (高校までの制度と違って)主体的学修が単位制度・学位制度の基盤だから
大学評価の視点:
③大学や教員の組織的な責任体制が
(学修時間)の確保に対応しているか
(←勉強しないのは大学が悪い)
2. 学修時間は指標として使いやすい
3. 国際的な信頼の指標になる

5

はじめに

6

はじめに

高等教育研究センターのスタンス

- 原案の素を作成し、共学担当理事に提案する立場ではありません
- しかし、どのようなGPAを導入するかを決定する立場ではありません
- 複数の形を想定し、それぞれの長所短所を検討し、それを見て大学構成員が意思決定できる、という**討議資料提供**をします

7

はじめに

2年間のシミュレーション期間の意味

1. シミュレーションをするため
2. (上の方ではなく)大学構成員が意思決定できるよう、十分な時間を取るため

← 現場に浸透していない決定はうまくいくはずがない

8

はじめに

本学にとって意義のあるGPA



学生が勉強するようになる

9

GPAとは

10

GPAとは？

優とか良とかの成績評価に点数 (grade point)をつけます。

それに単位数をかけ、履修した授業を全部足していきます。

最後に、履修した授業の数で割った数値＝平均値がGPA(grade point average)です。

11

GPAとは？

一つの授業の数値を
GP × 取得単位数 として、

GPA = 全授業の数値
÷ 総履修登録単位数

12

GPAとは？

要するに、GPA自体は

成績を平均値という形で数値化する、

というものでしかありません。

13

GPAとは？

よって、GPAの議論で重要なのは、
 どういう成績評定体系にするか、
 ということと、
 GPAを何に使うのか、
 という2点になります。

14

なぜ導入する？

理由は三つあります。

- (1) 学生が自分の状況を数値的に把握できるようし、また大学側も学生の状況を把握しやすくする
- (2) 成績評価の厳格化を通して、学生の学びをより確実なものにしていきたい
- (3) 文科省が求めている
 (『学士課程教育の構築に向けて(答申)』,
 平成20年12月24日中央教育審議会)

15

国内標準 vs. 北米標準

16

国内他大学の状況は？

やり方

今使っている成績評定区分のままそれにGPをあてる

信州大学でそれをする;

SはGP=4.0 Aは3.0

Bは2.0 Cは1.0 Fは0

Cが合格水準, Cが単位認定の下限

17

国内他大学の状況は？

9割弱の大学で、**退学勧告**の基準として使われていない

(文科省21年度調査: 56国立大学でGPA導入済みで、うち退学勧告の基準としているのは6国立大学)

18

国内他大学の状況は？

9割強の大学で、**卒業判定の基準**として使われていない

(文科省21年度調査：56国立大学でGPA導入済みで、うち退学勧告の基準としているのは5国立大学)

19

国内他大学の状況は？

- ・学期途中で出席しなくなった授業がGPAに算入されるかどうか
- ・受講取りやめの手続きについて
- ・GPA不振学生の取り扱いについて

この3点は、GPA関係の書類で触れていない方がふつう。

20

国内他大学の状況は？

国内標準のまとめ

- ・今ある成績評定区分をそのまま使う
- ・卒業要件にはしない
- ・退学勧告では使わない

⇒ 特に変わらない

学生がGPA導入で勉強するようになる、とは期待できない

21

国内理系大学の状況

東京工業大学

functional GPAであること以外は国内標準と同じ(資料)

名古屋工業大学

典型的な国内標準

九州工業大学

5点刻みである以外は国内標準(資料)

22

国内理系大学の状況

GPAに算入しない授業科目の標準形
5段階で評価する科目は算入する
可／不可で評価する科目は算入しない

九州大学(資料)

学部ごとのGPA対象科目一覧表
理系の方が指定が細かい

23

北米の大学では？

北米の大学では、「十分ではないが不合格にはしない」という意味の**D評定**がCの下にある

	S	A	B	C	D	F
日本	4.0	3.0	2.0	1.0		0
北米		4.0	3.0	2.0	1.0	0

普通の合格の下限はどちらもC

24

北米では？

この結果、日本のこの方式の大学の卒業生は、北米の大学の出身者と比べると、
同じGPAという名前の制度でありながら、
最初から1.0のハンディキャップを背負うことになります。

25

北米では？

退学勧告の基準としている

詳細はセンターニュース第4号で



26

北米では？

『センターニュース』への行き方

Yahoo等の検索エンジンで

「信州大学高等教育」で検索

⇒上の方の「イベント・お知らせ」

⇒右側中ほどの「カテゴリー別にみる」の「ニュースレター」

3号: GPAの対象科目

4号: 退学勧告

7号: 学習アドバイジング

27

北米では？

卒業判定の基準としている

普通は GPAが2.0以上

学期途中で出席しなくなった授業も
GPAに算入されるが、受講取りやめ
の手続きがあり、その場合はGPAに
算入されない

28

北米では？

- ・累積GPAが2.0を下回った学生は「仮及第」扱いとなり、次(またはそのまた次)の学期で2.0を回復しないと退学となる
- ・「仮及第」となりそうな場合や、「仮及第」となった時点でアドバイザーの助言を受けることが求められる。アドバイザーは学部教員ではない専門職である。

29

成績評価の厳格化？

30

GPAで何をやりたいの？

- GPAは「成績評価の厳格化」という文脈で語られることが多いのですが、GPAを導入することと、成績評価の厳格化との間には論理的なつながりはありません。
- しかし、GPA導入を機に、成績評価の厳格化を推進することはできます。信州大学ではそれをめざしたいと思います。

31

GPAで何をやりたいの？

「成績評価の**厳格化**」は意味が分からない

ありがちな誤解

1. 「成績を辛めに付けること？」
2. 「我々がいい加減につけていると非難する気か！（怒）」

↓

「成績評価の**透明化**」と言い替える

32

GPAで何をやりたいの？

「透明化」とは、

1. 担当教員と受講生との間で
ここまでできていればC(合格)で、
更に卓越していればA

というような**了解**ができている

2. 受講生が、
自分がどこまでできているのかモニターできる
という2点が確保されていることを指します。

33

GPAで何をやりたいの？

平たく言うと；

成績評価の透明化

= 受講生が(試験を返してもらえば)
自分の成績が素点レベルで完全予測できるようにすること

34

GPAで何をやりたいの？

1. 教員と受講生との間で評価基準の了解がある
2. 学生が、自分がどこまでできているか分かっている

⇒ 成績評価の**透明性**が高く、よって学生が自分の成績評価に**納得**する

35

GPAで何をやりたいの？

1. 教員と受講生との間で評価基準の了解がある

シラバスでこう書いておく

「これができるようになれば合格」

「この力を測る筆記試験で60点を取れば合格」

36

GPAで何をやりたいの？

1. 教員と受講生との間で評価基準の了解がある

最初の授業で学生に理解してもらう

「授業の目標から見て、
合格ラインはここ
これができるようになること」

37

GPAで何をやりたいの？

2. **学生が**、自分がどこまでできているか分かっている
＝自分の持ち点が計算できる

例

- ・毎回小テストをし、その累積で成績をつける
- ・中間試験をし、その結果をフィードバック
- ・出席点を自分でつけている

38

成績評価の厳格化？

今述べた2つ

1. 教員と受講生との間で評価基準の了解がある
2. 学生が、自分がどこまでできているか分かっている

実現すれば成績評価の透明化が実現
⇒ **大学の誇るべき文化に**

39

大学に入ると勉強しない？

40

勉強させる3つの方策

「学生は大学に入ると勉強しない」が本当だとしたら

⇒ **対策が必要**

41

勉強させる3つの方策

1. 学生が成績というものを真剣にとらえる制度にする

【GPA制度】

- ・卒業要件、退学勧告の基準として使う形でGPAを制度化する
- ・GPA制度に良い成績の顕彰も含める

42

勉強させる3つの方策

2. 成績は自分の力で積み上げていった結果という認識を持たせる

【初年次教育】

- ・出席管理は自分でする、提出物を出さないと成績が取れない、等々を、一年次の段階で教え、かつ実際に痛い目を見るという体験をする
- ・何をしたらどこまでできていればこの成績が取れる、ということを学生が承知しており、かつその通りの成績になる、ということについて全学的な了解があり、また学生が一年次に実際にそういう経験をする

43

勉強させる3つの方策

3. 授業で出される課題を通して勉強させる

【FD】

- ・コントロールされた課題をこなしていけるよう学習過程がデザインされている
- ・いつどういう課題が出されるのかがシラバスに書いてあり、またそれがどう採点されるかを学生が了解している

44

勉強させる3つの方策

- ・GPAだけでは学生が勉強するようになることは期待できない
- ・しかし学生に勉強させるより大きなプロジェクトの重要な部分ではある

45

個々の教員にとっては？

46

個々の教員にとっては？

方向1(国内標準で行こう)

①GPAを導入するが、制度的には今まで通り

- ⇒ 学生も今まで通り
- ⇒ 教員も今まで通り

47

個々の教員にとっては？

方向1(国内標準で行こう)

しかしながら、

学生も今まで通り

⇒ 「学生が勉強しない」は大学間競争で不利に

更に、国内標準型では、「国際」標準型に対しシステムティックに1点低いGPA

48

個々の教員にとっては？

方向2(北米標準で行こう)

②制度が「学生に勉強させる」方向にシフト

⇒ 教員は間違いなく**大変**になる

しかしそれは書類作成等で大変になるのではなく、「教育」という

教員の本分でのこと

49

個々の教員にとっては？

方向2(北米標準で行こう)

②制度が「学生に勉強させる」方向にシフト

⇒ 学生は勉強するようになる(?)



大学間競争で有利に

しかもGPAは「国際」標準の形

50

卒業研究と学位授与の方針

51

卒業研究に関して

1. 卒業研究は学士課程の集大成
2. 『学位授与の方針』(DP)は卒業生が備えていると大学が宣言した能力・知識



卒業生が身に付けているかどうかで

大学・学部が評価される

【新答申でそれが明確に】

この2つを組み合わせると・・・

52

卒業研究に関して

卒業研究は学士課程の集大成
それをDPの言葉で表現すると

例えば:

授業一つ一つが「卒業時の能力・知識」を分担する
⇒ 履修履歴は「卒業時の能力・知識」を積み上げていくということ

現状ですでにそうなっている

それを見えるようにする

53

卒業研究に関して

あり得る見せ方:

1. シラバスで、DPのどの部分を分担しているのかを明示する。
2. 卒業研究提出前には、DPがある程度完成に近いという形にDPの積み上げ方を規定しておく。
3. 卒業研究の審査項目のいくつかをDPの言葉で表現し、卒業研究によってDP獲得が完成する、という形にする。

54